

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between the existence of neonatal congenital anomalies and maternal postpartum depression up to 6 months after delivery: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

新生児の先天異常と産後 6 ヶ月までの母親の産後うつとの関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2025 DOI: 10.1016/j.jad.2025.01.075

筆頭著者名: 南川 優美奈

所属 UC 名: コアセンター

目的:

先天異常(CA)を有する新生児の出産と母親の産後うつ病(PPD)発症リスクとの関連を解析すること、および、母親 PPD の持続パターンを同定し、それらと CA の存在との関連を多変量解析によって検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査(JECS)の 86,464 組の母子ペアを対象とした。PPD は、産後 1 ヶ月と 6 ヶ月時にエジンバラ産後うつ病質問票を用いて評価した。CA と PPD の関連は、ベイズ多重対数二項回帰分析を用いて解析した。

結果:

CA のある新生児を出産した母親は、1 か月および 6 か月時点での PPD のリスクが高かった(オッズ比中央値 1 か月: 1.06、6 か月: 1.11)。また、PPD の持続パターンは遅延型、持続型、回復型、非罹患型の 4 つに分けられ、そのうち、遅延型と持続型のリスクと関連していた(オッズ比中央値 遅延型: 1.13、持続型: 1.13)。

考察(研究の限界を含める):

本研究により、CA のある新生児の母親の PPD リスクが産後 6 ヶ月まで持続することが示された。特に遅延型と持続型のパターンが多く見られたことから、出産直後だけでなく長期的な支援の必要性が示唆された。日本の標準的な周産期ケアでは、妊娠中の超音波検査や NIPT 検査により CA の早期発見が可能だが、それだけでは母親のメンタルヘルスを十分に保護できない可能性がある。本研究には、自己報告による PPD の評価や、CA の種類・重症度の区別がないこと、父親を含まない研究デザインであることが限界であるものの、CA のある新生児の母親に対する産後メンタルヘルスケアの見直しと拡充の必要性を示す重要なエビデンスとなった。

結論:

CA のある新生児の母親は産後うつ病のリスクが有意に高く、そのリスクは産後 6 ヶ月まで持続する。このことから、CA のある新生児の母親に対する長期的なメンタルヘルスケアの必要性が示唆された。